

○大規模特定河川事業(令和元年度事業開始、概ね10年間)

安芸川、地蔵寺川、志奈祢川、日下川で対策中

浸水被害が頻発する河川において集中的に事業を実施

背後に多くの住宅を抱える
志奈祢川（高知市）

河道の拡幅により治水能力の向上

改修前

改修後

ネックとなる箇所の整備等を急ぐ!



○防災・減災、国土強靭化のための5か年加速化対策(令和3年度から令和7年度)

「5か年加速化対策」により河床掘削・堤防整備などが推進

河床掘削・樹木伐採

堤防の強化・河川の拡幅

未整備箇所

かがみ
鏡川浚渫（高知市）やすだ
安田川改修（安田町）やなせ
柳瀬川（越知町）

浚渫前

河積阻害率：20%

改修前

至 佐川町

やなせおおち
県道柳瀬越知線

至 越知町

浚渫後

つきのせ
月の瀬橋

改修後

堤防の強化

河床掘削による
流下断面の確保

堤防強化・河川の拡幅による治水能力の向上

整備が完了(安全・安心を確保)

整備のため、継続的な予算の確保が必要

未整備箇所がまだまだあります!

政策提言

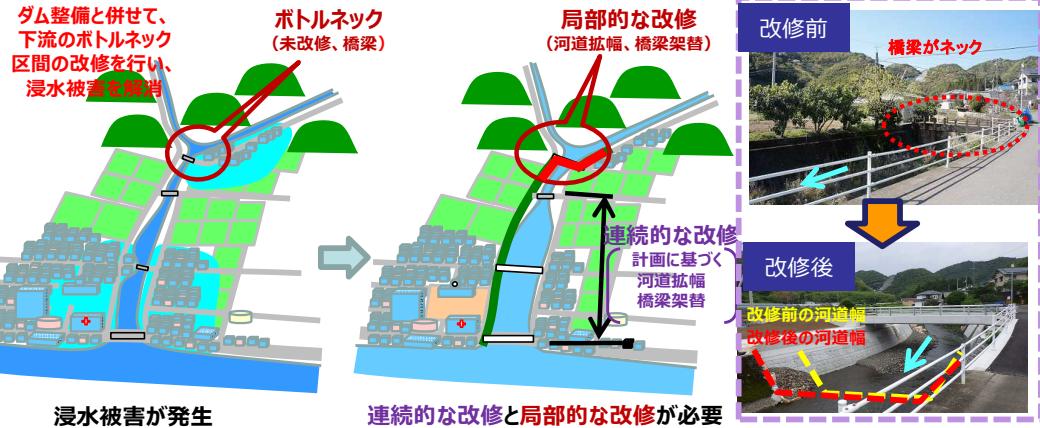
- ・「大規模特定河川事業」により、浸水被害が頻発する河川において、抜本的な治水対策を集中的に推進しています。
- ・「防災・減災、国土強靭化のための5か年加速化対策」により、河床掘削・堤防整備などが推進され、激甚化・頻発化する豪雨に対応する「治水対策」が大きく前進しています。しかし、県内にはまだ未整備箇所も多く残ります。
- ・これらの事業については、必要な予算を例年以上の規模で確保し、計画的に事業を推進することが必要です。
- ・また、南海トラフ地震の発生が逼迫していることを踏まえ、能登半島地震の教訓を踏まえた「国土強靭化実施中期計画」を令和6年内に策定し、5か年加速化対策後においても、国土強靭化に必要な予算・財源を通常予算とは別枠で確保して安定的・継続的に取り組むこと。

【地方債制度】 近年の豪雨等を踏まえた「中小河川及びダムの治水対策」の推進

高知県

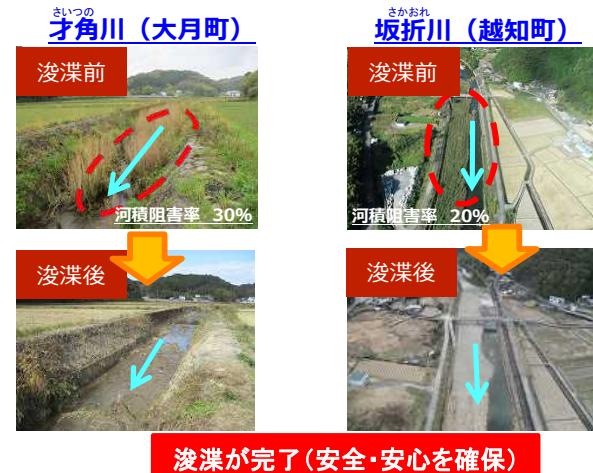
○地方債制度を活用した局部的な河川改修（緊急自然災害防止対策事業債） (令和3年度から令和7年度)

ボトルネックとなっている箇所の解消を、**局部的な改修**により、一定期間で集中的に整備



○地方債制度を活用した河川・ダムの計画的な維持掘削（緊急浚渫推進事業債） (令和2年度から令和6年度)

浸水被害の軽減のため、河川やダムを定期的に点検し、掘削や樹木伐採等の適切な対策を行う。



・県では地方債制度を活用し、計画的な維持掘削に必要な予算を確保（市町村も活用）

*浚渫債を活用し、制度前（183百万円）に比べ制度後（平均695百万円）は約3.8倍を確保

河川の維持掘削予算（単位：百万円） *ダム除く



政策提言

- ・「緊急自然災害防止対策事業債」の活用により、**ボトルネック箇所の局部的な改修**が県下各地で進んでいます。
- ・「緊急浚渫推進事業債」の活用により、**河川の計画的な維持掘削、ダムの洪水調節容量を確保するための浚渫**を県下各地で行っています。
- ・これらの事業を推進することで、住民の安全・安心を確保するための、治水対策が大きく進んでいます。
- ・県内にはまだ、対策を実施しなければならない箇所が多く残るため、**有利な地方債制度**が必要不可欠なことから、**制度の延長**をお願いします。

ながせ 高知県の永瀬ダムにおける現状と課題

- ◆ 近年頻発する豪雨に伴う広域的な山腹崩壊の発生などにより、**ダム貯水池において堆砂が進行**。
- ◆ 令和2年度まで、県単費により維持浚渫等に努めてきたが、土砂流入が**県単費で対応できる量を大きく上回る**。



【本格的な浚渫の促進】

- ◆ 令和3年度から洪水調節容量を確保するため、緊急浚渫推進事業債を活用して、ダム上流部でこれまでの**約16倍となる約7万m³/年の浚渫**を実施

—永瀬ダム貯水池 堆積土砂のイメージ図—

平成30年7月豪雨



貯水池に堆積した土砂の浚渫状況



山腹崩壊の
土砂が貯水
池に堆積

緊急浚渫推進事業債を活用することで、
堆砂の進行が軽減される

永瀬ダムの維持掘削予算(単位:百万円)



* 2019年度のデータに基づいています

（堆砂率）

土砂量 ÷ 土砂を貯める容量

= 17,999千m³ ÷ 13,500千m³

= 133.3% (33.3%超過)